

令和7年度
研究紀要

小中学校におけるキャリア教育の在り方 に関する実践研究

〈盛岡市立仙北中学校区〉

盛岡市立仙北中学校

盛岡市立仙北小学校

盛岡市立向中野小学校

令和8年1月

盛岡市教育研究所

目 次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究のねらい	2
IV	研究の内容と方法	2
V	研究計画	2
VI	研究の実際	
1	キャリア教育についての教員研修	3
2	児童生徒の意識調査と分析	3
3	9年間のキャリア教育全体計画の策定	8
4	発達段階に応じた体験活動の充実	13
5	キャリア教育の視点を位置付けた授業実践交流	17
6	キャリア教育の視点を踏まえた小中交流事業	27
VII	研究の成果と課題	
1	成果	29
2	課題	30
3	おわりに	30

I 研究主題

夢や目標を持ち、自立貢献する児童生徒の育成
～小中 9 年間を見通したキャリア教育を通して～

II 主題設定の理由

1 教育の今日的課題から

急速に変化する予測困難な時代において積極的にその変化と向き合い、生き抜いていく社会の担い手に必要な資質能力を育成するため、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす学習指導要領は、令和 3 年度全面実施となり、今年度で 5 年目となる。

キャリア教育の理念は浸透しつつあるが、教育課程全体を通じて必要な資質・能力を育成する取り組みは、引き続き重要である。

中学校学習指導要領総則では、「生徒が学ぶことと自己の将来のつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。」とされている。

これまで仙北中学校区では、キャリア教育を「進路指導」という狭義だけでなく、特別活動の学級活動を中心として、「働くこと」の指導や、県が設定する「総合生活力」「人生設計力」の育成をそれぞれの発達段階において計画的に行ってきた。

また特別活動を要として、総合的な学習の時間、学校行事、道徳科、各教科における学習、教育相談等、教育活動全体を通じ

て、必要な資質・能力を育成してきた。

そこで、仙北中学校区の子ども達が「夢や希望を持ち、自立貢献する児童生徒」となるために、各校がこれまで行ってきた教育実践を、学習指導要領に基づき、「キャリア教育」の視点から捉え直した。そして 9 年間を見通しながら、特別活動を要として学校教育活動全体の改善・充実を図るカリキュラム・マネジメントを実施することで、仙北中学校区のキャリア教育がより充実すると考え、この主題を設定した。

2 児童・生徒の実態

仙北中学校区は、盛岡市南部に位置し、仙北小学校、向中野小学校、仙北中学校の 3 校からなる。

仙北小学校は、伝統的な行事や地域行事が多く、児童数はほぼ横ばいである。向中野小学校は盛南開発事業の進展に伴い、商業施設や新興住宅地の激増により、平成 24 年 4 月に新設され、県内最大規模の小学校となっている。向中野小学校卒業生の増加に伴い、仙北中学校の生徒数も年々増加し、近年は約 700 名の生徒が在籍し、県内最大規模の中学校となっている。

平成 30 年度には、仙北小学校・向中野小学校・仙北中学校の 3 校において、「仙北中学校区小中一貫教育学校公開研究会」が行われ、三校が共同で研究を行った。

各校の教育目標は、「豊かな心を持ち、自らを切り拓く子ども」（仙北小）「夢・努力・優しさで笑顔あふれる未来を拓く子」

(向中野小)「自立貢献」(仙北中)となっており、各校が教育活動全体を通じて、計画的にキャリア教育を実践している。

Ⅲ 研究のねらい

小中連携により、以下のことを重点的に取り組む。

- 1 キャリア教育の視点で、9年間の教育課程を整理する。
- 2 特別活動を要とし、教科・領域等、それぞれの発達段階に応じた体験活動を充実させる。
- 3 キャリア教育の視点で、小中交流活動を充実させる。

Ⅳ 研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 仙北中学校区の児童生徒の実態を踏まえ、キャリア教育の視点を導入し、育てたい子ども像と、各学年のキャリア教育の重点事項及び児童生徒が身につけるべき資質能力の明確化
- (2) 9年間のキャリア教育全体計画の策定
- (3) キャリア教育の視点を位置づけた授業実践交流の実施
- (4) キャリア教育の視点を踏まえた小中交流事業及び体験活動の充実

2 研究の方法

- (1) 文献研究
- (2) 教員研修
- (3) キャリア教育全体計画・教育課程編成
- (4) 小中間の授業実践と交流活動
- (5) 調査研究

Ⅴ 研究計画

1 1年次（令和6年度）

- (1) 組織の設置と会議

ア 推進委員会（校長部会・教育課程連携部会・研究連携部会・生徒指導部会・事務局）の設置

イ 推進委員会の開催

(2) 児童生徒の意識調査と分析

ア キャリア教育についてのアンケート調査の実施（7月・2月）と分析

イ 県学調質問紙項目等の分析

(3) キャリア教育についての教員研修

ア 各校 SL 講座を活用した研修の実施

イ キャリア教育の視点を踏まえた育てたい子ども像の明確化

(4) キャリア教育全体計画・年間指導計画の見直し、改善

ア 9年間の計画

イ 総合生活力と人生設計力に共通する計画

(5) 授業等の実践交流

ア 各校計画している校内研を活かした参観・研究会への参加

(6) 小中交流活動（生徒指導連携）

(7) キャリアパスポート活用の充実

ア キャリア教育の評価

イ 家庭へ啓蒙活動

(8) 体験活動の充実（キャリアの視点）

(9) 文献研究

2 2年次（令和7年度）

(1) キャリア教育推進委員会の開催

(2) 児童生徒の意識調査の実施（9月）と分析

(3) キャリア教育全体計画・年間指導計画の活用と改善

(4) 授業等の実践交流

ア 中学校での小中交流研究会の実施

イ 各校計画している校内研を活かした参観・研究会への参加

- (5) 小中交流活動
- (6) キャリアパスポート活用の充実
- (7) 体験活動の充実(キャリア教育の視点)
- (8) 研究のまとめ(発表)

VI 研究の実際

1 キャリア教育についての教員研修

(1) SL 講座による教員研修(向中野小)

本研究に先行して、令和5年度に実施したキャリア教育推進講座では、小中9年間を見通したキャリア教育についてのねらいや育成すべき能力、小中連携での留意すべき点、各教科や活動との関連について研修を行った。

これまでの教育活動をキャリア教育の視点から再評価して、児童に身につけたい力とそれに伴う活動を具体的に検討する必要性を確認した。また、児童の成長を振り返るための適切な教師の評価(教師の承認や声かけ)が、自己肯定感を高めることを意識して児童の指導に当たることが、キャリア教育の観点からも重要であることを再確認した。

(2) SL 講座による教員研修(仙北中)

研究1年次には、中学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する研修を実施した。生徒を対象としたキャリア教育アンケート結果から、仙北中学校の生徒は「夢や目標に向かって前向きに取り組むことができる」ものの、自己肯定感や周囲の事象への関心が低い傾向があることが明らかになった。これを踏まえ、教育目標「自立貢献」の具現化をめざし、キャリア教育の視点から「①目指すべき生徒像②生徒につけさせたい力③どの場

面で、どのように育成するか」の3点について、グループ協議を実施し、その結果を共有した。

「自立貢献」を踏まえ、めざす生徒像がより具体的に議論され、要とする特別活動における学級活動はもちろんのこと、学校行事、道徳科、各教科の授業において、主体的・対話的で深い学びの実現から、総合生活力・人生設計力が育成されることが期待される。「何事にも前向きに取り組む、広い視野を持って進んでいこうとする生徒」の育成のための具体の姿を共有することができた。

2 児童生徒の意識調査と分析

(1) キャリア教育アンケート実施時期と項目について

第1回調査は研究1年次令和6年7月に実施した。本調査は児童生徒の現状を把握することを主目的として項目を設定し、その結果をもとに、児童生徒が育成を目指す理想的な子ども像について検討することを目的とした。

第2回調査は、研究1年次令和7年2月に実施した。小学校との連携を考慮し、中学校の項目を、小学校高学年に相当する内容に調整した。

第3回調査は、研究2年次令和7年9月に第2回調査と同一項目で実施した。

第1回調査の項目および結果、第2回・第3回調査の項目は以下の通りである。

※尚、p. 6からのアンケート項目の記載は、変更後の項目及び項目番号(第2回・第3回)によるものとする。

第1回 キャリア教育アンケート調査項目・結果(令和6年7月実施)

4：いつもしている 3：ときどきしている 2：あまりしていない 1：していない

小学校低学年		仙小	向小	小学校中高学年		仙小	向小	中学校		仙中
①	はっきりあいさつをしたり、 ていねいなことばづかいを していますか。	3.40	3.49	①	時と場に応じたあいさつや言葉 づかいをしていますか。	3.44	3.40	①	友だちや家の人の意見を聞く 時、その人の考えや気持ちを受 け止めようとしていますか。	3.76
②	ルール（きまり）やマナーを まもって、せいかつしていま すか。	3.58	3.60	②	学校や家でのルール（インター ネット等での約束もふくむ）や 社会のマナー（他人に迷惑をか けない）を守って生活をしてい ますか。	3.62	3.61			
③	あいてのきもちをかんがえて きいたり、はなしたりしてい ますか。	3.42	3.48	③	友だちが自分の考えや行動と違 うときに、相手の気持ちを考え て話したり、聞いたりしていま すか。	3.48	3.47			
④	じぶんのきもちやかんがえ が、あいてにわかるようには なしていますか。	3.37	3.48	④	自分の気持ちや考えが、相手に 伝わるようにはなしています か。	3.47	3.41	②	相手が理解しやすいように工夫 しながら、自分の考えや気持ち を伝えようとしていますか。	3.69
⑤	ともだちと力をあわせて、か かりやとうばんのしごとをし ていますか。	3.72	3.71	⑤	係や当番の仕事を公平に分担し たり手伝ったりするなど、チー ムワークを考えて行動していま すか。	3.66	3.58	③	自分から役割や仕事を見つけた り、分担したりしながら、周囲 と力を合わせて行動しようとし ていますか。	3.65
⑥	じぶんにはいいところがある とおもいますか。	3.35	3.43	⑥	自分にはいいところがあると思 いますか。	3.00	3.03	④	自分の興味や関心、長所や短所 などについて、把握しようとし ていますか。	3.55
⑦	しなければならぬことを、 したくないときでもがまんし てとりくんでいますか。	3.58	3.56	⑦	やらなければならぬ事を、や りたくない時でもがまんして取 り組むことができていますか。	3.51	3.49	⑤	気持ちが沈んでいる時や、あま りやる気が起きない物事に対す る時でも、自分がすべきことに は取り組もうとしていますか。	3.30
⑧	にがてなことにも、すすんで とりくんでいますか。	3.53	3.56	⑧	苦手なこと、進んで取り組も うとしていますか。	3.29	3.29	⑥	不得意なことや苦手なことでも、 自ら進んで取り組もうとし ていますか。	3.25
⑨	わからないことがあったとき は、きいたりしらべたりしてい ますか。	3.45	3.51	⑨	分からないことやもっと知りたい ことがあった時、人に聞いた り調べたりしていますか。	3.39	3.38	⑦	分からないことやもっと知りたい ことがある時、自分から進ん で資料や情報を収集したり、だ れかに質問をしたりしています か。	3.44
⑩	まちがえたりしっぱいしたり したあと、おなじことをくり かえさないためにどうしたら いいか、かんがえています か。	3.37	3.41	⑩	間違えたり失敗したりした後、 同じ過ちを繰り返さないため に、どうすればいいか考えてい ますか。	3.36	3.38	⑧	何か問題が起きた時、次に同じ ような問題が起らないように するために、何をすればよいか 考えていますか。	3.79
⑪	けいかくをたてて、ものごと にとりくんでいますか。	3.45	3.44	⑪	何かをしようとする時、見通し をもって計画を立てて進めてい ますか。	3.27	3.19	⑨	何かをする時、見通しをもって 計画的に進めたり、そのやり方 などについて改善を図ったりし ていますか。	3.42
⑫	ぺんきょうやかつどうが、じ ぶんのしょうらいにやくだつ とかんがえて、せいかつしてい ますか。	3.56	3.55	⑫	今、学校で勉強したり係活動を したりしていることが、自分の 将来に役立つと考えて生活して いますか。	3.37	3.36	⑩	学ぶことや働くことの意義につ いて考えたり、今学校で学んで いることと自分の将来とのつな がりを考えたりしていますか。	3.37
⑬	ゆめやもくひょうにむかって どりよくしていますか。	3.55	3.61	⑬	夢や目標に向かって、今やるべ きことを考え努力しています か。	3.46	3.41	⑪	自分の将来について具体的な目 標をたて、その実現のための方 法について考えていますか。	3.23
⑭	しゃかいのできごと（ニュー ス）にかんしんをもってせい かつしていますか。	3.25	3.26	⑭	ニュースに関心を持っています か。	3.20	3.11	⑫	自分の将来の目標に向かって努 力したり、生活や勉強の仕方を 工夫したりしていますか。	3.36
				⑮	夢や目標に向かうために、 健康な体づくりに努めてい ますか。	3.50	3.44			

第2回・第3回 キャリア教育アンケート調査項目(令和7年2・9月実施)

4 : いつもしている 3 : とときどきしている 2 : あまりしていない 1 : していない

小学校低学年		小学校中高学年		中学校	
①	はっきりあいさつをしたり、ていねいなことばづかいをしていますか。	①	時と場に応じたあいさつや言葉づかいをしていますか。	①	時と場に応じたあいさつや言葉づかいをしていますか。
②	がっこうやいえでのルール（インターネットなどでのやくそくもはいます）やマナーをまもって、せいかつしていますか。	②	学校や家でのルール（インターネット等での約束もふくむ）や社会のマナー（他人に迷惑をかけない）を守って生活をしていますか。	②	学校や家でのルール（インターネット等での約束もふくむ）や社会のマナー（他人に迷惑をかけない）を守って生活をしていますか。
③	あいてのきもちをかんがえてきいたり、はなしたりしていますか。	③	友だちが自分の考えや行動と違うときに、相手の気持ちを考えて話したり、聞いたりしていますか。	③	友だちが自分の考えや行動と違うときに、相手の気持ちを考えて話したり、聞いたりしていますか。
④	じぶんのきもちやかんがえが、あいてにわかるようにはなしていますか。	④	自分の気持ちや考えが、相手に伝わるように話していますか。	④	自分の気持ちや考えが、相手に伝わるように話していますか。
⑤	ともだちと力をあわせて、かかきやとうばんのしごとをしていますか。	⑤	係や当番の仕事を公平に分担したり手伝ったりするなど、チームワークを考えて行動していますか。	⑤	係や当番の仕事を公平に分担したり手伝ったりするなど、チームワークを考えて行動していますか。
⑥	じぶんにはいいところがあるとおもいますか。	⑥	自分にはいいところがあると思いますか。	⑥	自分にはいいところがあると思いますか。
⑦	しなければならぬことを、したくないときでもがまんしてとりくんでいますか。	⑦	やらなければならぬことを、やりたくないときでもがまんして取り組むことができていますか。	⑦	やらなければならぬことを、やりたくないときでもがまんして取り組むことができていますか。
⑧	にがてなことにも、すすんでとりくんでいますか。	⑧	苦手なことにも、進んで取り組もうとしていますか。	⑧	苦手なことにも、進んで取り組もうとしていますか。
⑨	わからないことがあったときは、きいたりしらべたりしていますか。	⑨	分からないことやもっと知りたいことがあったとき、人に聞いたり調べたりしていますか。	⑨	分からないことやもっと知りたいことがあったとき、人に聞いたり調べたりしていますか。
⑩	まちがえたりしっぱいしたりしたあと、おなじことをくりかえさないためにどうしたらいいか、かんがえていますか。	⑩	間違えたり失敗したりした後、同じ過ちを繰り返さないために、どうすればいいか考えていますか。	⑩	間違えたり失敗したりした後、同じ過ちを繰り返さないために、どうすればいいか考えていますか。
⑪	けいかくをたてて、ものごとにとりくんでいますか。	⑪	何かをしようとするとき、見通しをもって計画を立てて進めていますか。	⑪	何かをしようとするとき、見通しをもって計画を立てて進めていますか。
⑫	べんきょうやかつどうが、じぶんのしょうらいにやくだつとかんがえて、せいかつしていますか。	⑫	今、学校で勉強したり係活動をしたりしていることが、自分の将来に役立つと考えて生活していますか。	⑫	今、学校で勉強したり係活動をしたりしていることが、自分の将来に役立つと考えて生活していますか。
⑬	ゆめやもくひょうにむかってどりよくしていますか。	⑬	夢や目標に向かって、今やるべきことを考え努力していますか。	⑬	夢や目標に向かって、今やるべきことを考え努力していますか。
⑭	しゃかいやみのまわりのできごと（ニュース）にかんしんをもってせいかつしていますか。	⑭	社会や身の周りの出来事（ニュース）に関心をもって生活していますか。	⑭	社会や身の周りの出来事（ニュース）に関心をもって生活していますか。

変更点

- 低学年②の内容を中高学年に寄せ、SNS（インターネット）の中身を入れた。
- ⑭に「みのまわり（身の周り）」の文言を入れた。
- 高学年⑬と⑮を統合し、低学年⑭を高学年⑭とした。
- 中学生の内容を、小学校中高学年からの変化をよりはっきりと見るために中高学年と同じ内容とした。

(2) めざす子ども像に関わって

研究1年次令和6年7月実施第1回調査では、児童生徒の目標とする姿に関する調査項目全般において、肯定回答の割合が高かった。

研究1年次令和7年2月実施第2回調査では、自身の将来につながる項目⑫「今学校で勉強したり係活動をしたりしていることが、自分の将来に役立つと考えて生活していますか」、⑬「夢や目標に向かって、今やるべきことを考え努力していますか」における肯定的回答の割合は、小中全体で90%前後という高い水準を示しており、「何事にも前向きに取り組む」児童生徒像が確認された。

一方で、自己肯定感に関連する項目⑥「自分にはいいところがあると思いますか」においては、学年が進むにつれて「4」と回答した割合が30%から50%へと増加したものの、「1」と回答した割合が約10%の学年も存在した。また、社会への関心に関連する項目⑭「社会や周りの出来事（ニュース）に関心を持って生活していますか」においては、肯定的回答が最も低い結果となった。

これらの調査結果と中学校の教育目標である「自立貢献」を踏まえ、「何事にも前向きに取り組む」良さをさらに伸ばしながら、育成したい項目を盛り込み、めざす子ども像を「何事にも前向きに取り組む、広い視野を持って進んでいこうとする児童・生徒」と定義した。

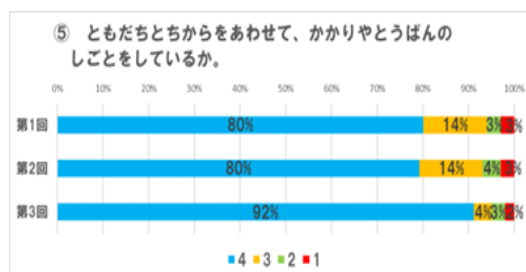
その上で、「自ら進んでよくあろうとする」「苦手な事でも頑張ってやり遂げようとする」「社会的な出来事に関心を持つ」「自分の良さや興味関心を理解しようと

する」「他者と協力しながら自立し、社会に貢献できる」といった具体的な姿も、全体計画へ盛り込むこととした。

(3) 仙北小学校調査分析

ア 低学年

項目⑨、⑭を除く項目について、肯定的回答は回を重ねるごとに増加傾向にある。これは、学校全体で児童の行動を価値付け、粘り強く指導した成果と考えられる。特に、項目②、⑤（ルールを守る意識、責任感、協働の姿勢）の肯定的回答は高い水準にある。

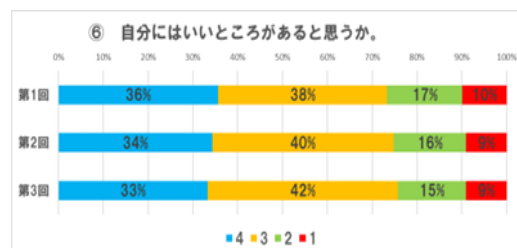


項目⑨、⑭から学びの主体性や社会への関心が伸び悩んでいる傾向が見られる。成功体験や挑戦する機会を増やしていくことが必要と考えられる。

イ 中高学年

4:いつもしている」の割合は微減したものの、低学年と同様に項目②及び⑤などの肯定的回答が90%以上であった。

項目⑥、⑧、⑩、⑫（自己肯定感や粘り強さ、失敗から学ぶ力）で肯定的回答が低下。自分を厳しく見始めるなど、中高学年の発達段階の影響が考えられる。自分の頑張りを自覚できるような支援が必要と考えられる。



ウ 全体を通して

表面的には、横ばいの項目が多いものの、「低学年が伸び、高学年が停滞・減少」という傾向が見られる。「4：いつもしている」は減少傾向にあり、「3：ときどきしている」が増加している。

自己肯定感の向上、挑戦や失敗から学ぶ力の育成、社会・ニュースへの関心の向上は、継続して取り組む必要がある。

結果のみを判断基準にするのではなく、児童が挑戦する過程や努力の積み重ねを適切に評価し、フィードバックを行うことが重要である。

(4) 向中野小学校調査分析

ア 低学年

すべての項目について、研究1年次令和6年7月の段階から、自身の行動を肯定的に捉えている。(肯定的回答12項目において90%以上、2項目において80%以上を記録している)

項目②、③、⑩、⑫に関しては、年度末には自己肯定感が高まると考えられる。しかしながら、進級し成長したことで、目標を引き上げたため、肯定的回答が低下したとも考えられる。

項目⑥に関して、自身の長所を認識する肯定的回答が低下した。これは、自分の能力を客観的に評価する能力が向上したためと考えられる。自身の長所を認識できる取組を継続し、振り返りの中で意識づけを図りたい。

項目⑨「周りにきく、調べる」、⑪「計画を立てる」に課題が認められる。

イ 中高学年

すべての項目について、研究1年次令和6年7月の段階から自身の行動を肯定

的に捉えている。(肯定的回答は、6項目において90%以上、7項目において80%以上を記録している)

項目⑧において、減少した後、回復した。これは、自身の長所を認識する能力が向上したためと考えられる。

項目⑨、⑪は低学年と同じ傾向を示した。

ウ 全体を通して

自分を客観的に見つめる力が育ったことや進級等により、肯定的回答が低下したが、継続した取組や意識づけにより、増減しながら高まっていくと考える。

自ら計画を立て、見通しを持ち、主体的に取り組む機会を意図的に設定し、意識を高めることが重要である。

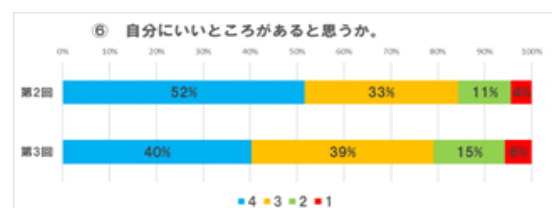
(5) 仙北中学校調査分析

項目⑦、⑧、⑪、⑫など8項目において、「1：ほとんどしていない」の割合が減少した。授業、行事等を通して自覚を高めた生徒数の増加が推測される。

(⑦ -1P、⑧ -1P、⑪ -1.7P、⑫ -1.3P)

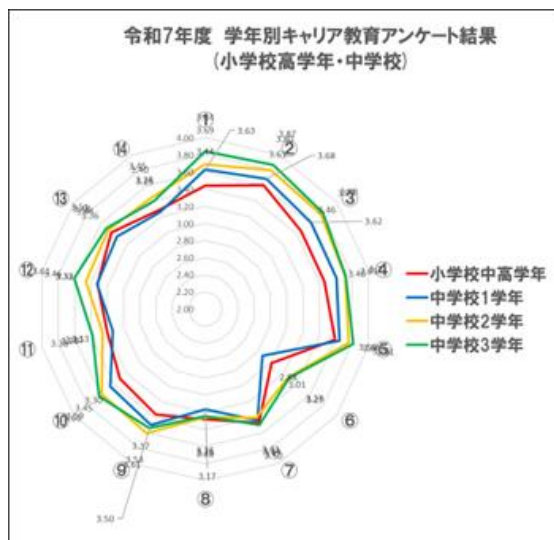
全体的に、肯定的回答の割合が比較的低い項目は⑥、⑧、⑪である。自己肯定感を高める取組や、粘り強く取り組む姿勢の育成は、今後も継続的に実施する必要がある。

肯定的回答において、10項目が減少、4項目はほぼ変化なしであった。減少傾向の要因として、今年度の3学年の人数が昨年度より少なかったことが考えられる。



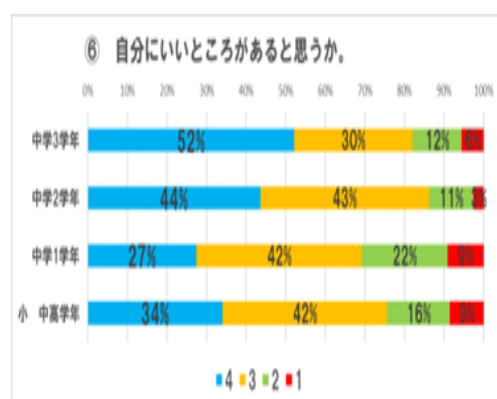
(5) 第3回調査学年別比較分析

平均値をレーダーチャート（下図参照）で表すと、小学校中高学年と中学校全学年において相関関係が見られた。



ほぼすべての項目において、学年が上がるに伴い、割合が高くなる傾向がみられた。項目①～⑤、⑩において、その関係が顕著に現れた。学校生活の経験値や自分の将来像が具体化してくるためと考えられる。このことから、教師側がキャリア教育の視点をもって授業や行事を進めることが重要であることを再認識した。

また、小学校中高学年に比べ、中学校1学年で割合が一度減少する項目は、⑥～⑧、⑪～⑬である。これらは、生活や環境が大きく変化するためと考えられる。このことから小中連携の重要性が分かる。



3 9年間のキャリア教育全体計画の策定

小中連携による9年間を見通したキャリア教育の全体計画を策定するにあたり、児童生徒の発達段階に応じた目標設定と、小・中学校間の連携を重視した。各校の教員が本研究に対して共通理解を深め、児童生徒の発達段階に応じた系統的・継続的な指導内容を盛り込むことに留意した。

はじめに、小・中学校それぞれのキャリア教育の取り組みの現状と課題を小中教員合同の研修や会議で共有し、基本方針と目標を設定した。児童生徒に対して行ったアンケートをもとに実態を把握し、仙北中学校区でめざす子ども像を明確にした。

（本紀要 p. 3 の 2）

次に、小・中学校9年間を見通したキャリア教育の基本方針を定めた。いわてのキャリア教育で育成すべき能力（総合生活力…確かな学力、豊かな心、すこやかな体、人生設計力…社会を把握する能力、勤労観・職業観、将来設計能力）を軸に検討した。また、発達段階（小学校低学年、中学年、高学年、中学校）ごとに、キャリア発達の目標を具体的に設定した。

さらに、9年間の全体計画に基づき、各校で取り組むキャリア教育の指導内容を具体化するよう努めた。各教科、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事）において、キャリア教育に関連する単元や活動を整理した。全体計画を作成することにより、各校で取り組んでいる日常の授業、体験的な活動、児童会・生徒会活動などの実践をキャリアの視点で見つめ直すことを目指した。

仙北中学校区キャリア教育全体計画

仙北中学校区児童・生徒の実態	各校の学校教育目標	いわてキャリア教育のねらい
<ul style="list-style-type: none">・夢や目標に向かって前向きに取り組むことができる。・自己肯定感が低めの傾向がある。・身の周りの事象への関心が低めの傾向がある。	仙北中学校：自立貢献 仙北小学校：豊かな心を持ち、自ら切り拓く子ども 向中野小学校：「夢」「努力」「優しさ」で笑顔あふれる未来を拓く子	児童生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための能力を学校教育活動全体で計画的・組織的に育むこと
盛岡市がキャリア教育で目指す子どもの姿 仙北中学校区重点項目	目指す児童・生徒像 「何事にも前向きに取り組む、広い視野を持って進んでいこうとする児童・生徒」	評価
(小) 自分のよさに気付く 将来の夢や希望をもつ (中) 自分らしさを生かす 様々な職業の社会的な役割を理解する	<ul style="list-style-type: none">・自ら進んでより良くあらうとする児童・生徒・苦手なことでも頑張っってやり遂げようとする児童・生徒・社会的な出来事に関心を持つ児童・生徒・自分の良さや興味関心、個性を理解しようとする児童・生徒・他者と協力しながら自立し、社会に貢献できる児童・生徒	<ul style="list-style-type: none">・キャリアアンケートの実施・全国学力学習状況調査・県学調の結果分析・キャリアパスポートの活用

キャリア教育の目標：夢や目標を持ち、自立貢献する児童生徒の育成							
各校の目標		仙北小学校：将来を見つめ自らの生き方を考え行動する力を育てる 向中野小学校：人との関わりや活動を通し、自己のあり方や生き方を考え、働くことの楽しさや夢や希望に向かって努力することの大切さに気づく子供を育てる			仙北中学校：生徒が自己のあり方、生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための態度や能力を育成する		
各学年の目標		低学年	中学年	高学年	1年生	2年生	3年生
重点		・小学校生活に適應する。 ・身の回りの事象への関心を高める。 ・自分の好きなことを見つけてのびのびと活動する。	・友達と協力して活動する中で関わりを深める。 ・自分の持ち味を發揮し役割を自覚する。	・自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。 ・集団の中で自己を生かす。	キャリア教育の基礎を培うために、『自己理解』の力を高める。	将来の生き方を体験的な活動を通して培うために、『自己啓発』の力を高める。	自分の生き方についてのまとめをし、『自己決定』の力を高める。
		・健康や安全に気をつけ、規則正しい生活ができる ・外で元気に遊び、体力向上に取り組む。 ・自分のことは自分でやおうとすることができる。 ・あいさつや返事をしたり、自分の考えを話すことができる。		・健康や安全に気をつけ、自分の生活を見直すことができる。 ・外で元気に遊び、体力向上に目標を持って取り組む。	・基本的な生活習慣を身に付け、健康的な生活を送ることができる。		
総合生活力	健康・体力						
	豊かな人間性	情報活用能力：情報モラルへの意識を向上させ、実践力を育む					
	確かな学力	情報活用能力：情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用することを通して資質能力を育成する					
	将来設計力						
人生設計力	力						
	自分から進んで人生計画を立て、進路を選択し、決定できる						
	将来設計力	・好きなこと、得意なこと、できることを増やし、さまざまな活動に興味を持つ。 ・決められた時間やきまりを守ろうとすることができる。	・将来の夢や希望を持つ。 ・学習等の計画を立てることができる。 ・自分のやりたいこと良いと思うことなどを考え、進んで取り組むことができる	・将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力しようとする。 ・将来のことを考える大切さがわかる。	・将来に対する漠然とした夢や憧れを抱く。	・将来の夢を達成する上での現実の問題に直面し、検索する。	・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。
	勤労観・職業観	・身近で働く人々に関心を持つ。 ・係や当番の活動を通して働く喜びを知る。 ・作業の準備や片づけをすることができる。	・身近で働く人々に興味を持ち、その苦労や喜びを知る。 ・係や当番活動を通してみんなのために積極的に働く。	・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つことを行う。 ・憧れとする職業観を持ち、今しなければならぬことを考えることができる。	・集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。	・社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的にとらえる。	・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。
社会を把握する能力	社会を把握する能力	・学校でしてよいことと悪いことがあることがわかる。 ・郷土に親しみをもち、郷土の先人に親しむ。	・郷土を大切にすることをもち、郷土の先人（原敬）に学ぶ。 ・外国の人々や文化に関心を持つ。	・郷土を愛する心を持ち、郷土の先人（原敬）の生き方に触れ自分自身を見直す。 ・日本や外国の文化に関心を持つ。	世界の現状や防災の現状に目を向け、より良き未来を迎えるために解決すべき課題を見つけ、自分の考えを発信しようとする。	岩手や身近な社会で働く人々の仕事への思いやSDGsの視点を通して社会貢献のあり方や課題を学び、周りと関わり合いながら、自らの生き方を考えようとする。	世界やいわての課題と身近な課題を結び付け、持続可能な社会の実現のために自分たちには何ができるのか、行動化の手立てを考え、共に生きる未来を創造しようとする。

キャリア教育全体計画

盛岡市立仙北小学校

いわてが目指すキャリア教育のねらい 児童生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための能力を学校教育活動全体で計画的・組織的に育む。	学校教育目標 豊かな心を持ち、 自らを切り拓く子ども（夢） ○よく考えやりぬく子ども（知） ○豊かな心で思いやりのある子ども（徳） ○健康でたくましい子ども（体）	目指す子ども像 ・自他の心や命を大切にすること ・気づき、考え、実行できる子ども ・多様な個性を認め、高め合う子ども ・他者のために役立つことを喜びとする子ども
仙北中学校区キャリア教育の目標 夢や目標を持ち、 自立貢献する児童生徒の育成		評価 ・キャリアアンケートの実施 ・全国学力学習状況調査・県学調の結果分析 ・キャリアパスポートの活用
盛岡市がキャリア教育で目指す児童の姿 仙北中学校区小学校における重点項目 自分のよさに気付く 将来の夢や希望をもつ		

目標：将来を見つめ、自らの生き方を考え行動する力を育てる。									
各学年の目標		低学年		中学年		高学年			
重点		・小学校生活に適應する。 ・身の回りの事象への関心を高める。 ・自分の好きなことを見つけてのびのびと活動する。		・友達と協力して活動する中で関わりを深める。 ・自分の持ち味を発揮し役割を自覚する。		・自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。 ・集団の中で自己を生かす。			
総合生活力	生きるために必要な社会人・職業人としての自立して生きる力	・健康や安全に気をつけ、規則正しい生活ができる ・外で元気に遊び、体力向上に取り組む。 ・自分のことは自分で行おうとすることができる。 ・挨拶や返事をしたり、自分の考えを話したりすることができる。				・健康や安全に気をつけ、自分の生活を見直すことができる。 ・外で元気に遊び、体力向上に目標を持って取り組む。			
	豊かな人間性	情報活用能力：情報モラルへの意識を向上させ、実践力を育む ・気持ち良い挨拶、言葉遣いなどに心がけて、明るく生活する。		・自分や友達のよいところを見つけ、認め合うことができる。 ・友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。		・身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して責任を果たす。 ・自分の長所に気付き、自分らしさを発信することができる。 ・相手の立場に立って考え行動しようとする。			
	確かな学力	情報活用能力：情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用することを通して資質能力を育成する ・基本的な学び方がわかる。 ・自分の考えをみんなの前で話す。 ・課題解決に向かって努力する。		・解決方法や手順を選択して学習を進める。 ・協働して学ぶ。 ・自分の意見や気持ちを分かりやすく表現することができる。		・自ら自己課題の解決を進め、解決の成果を基に新たな課題を設定して取り組もうとする。 ・協働して学ぶことができる。 ・学んだり体験したこと、生活や職業との関連を考えることができる。			
人生設計力	力を育て、自分から進路を選択し、人生計画を立てることができる	・好きなこと、得意なこと、できることを増やし、さまざまな活動に興味を持つ。 ・決められた時間やきまりを守ろうとすることができる。		・将来の夢や希望を持つ。 ・学習等の計画を立てることができる。 ・自分のやりたいこと良いと思うことなどを考え、進んで取り組むことができる。		・将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力しようとする。 ・将来のことを考える大切さがわかる。			
	豊かな人間性	・身近で働く人々に興味を持つ。 ・係や当番の活動を通して働く喜びを知る。 ・作業の準備や片づけをすることができる。		・身近で働く人に興味を持ち、その苦勞や喜びを知る。 ・係や当番活動を通してみんなのために積極的に働く。		・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つことを行う。 ・憧れとする職業観を持ち、今しなければならぬことを考えることができる。			
	確かな学力	・学校でしてよいことと悪いことがあることがわかる。 ・郷土に親しみをもち、郷土の先人に親しむ。		・郷土を大切にすることをもち、郷土の先人に学ぶ。 ・外国の人々や文化に関心を持つ。		・郷土を愛する心を持ち、郷土の先人の生き方に触れ自分自身を見直す。 ・日本や外国の文化に関心を持つ。			

教科・領域等におけるキャリア教育の指導目標				
各教科	道徳科	総合的な学習の時間	特別活動	外国語活動
・問題解決的な学び方の習得を推進する。 ・主体的なコミュニケーション活動ができる場を設定する。 ・生活を支える身の回りの人々の仕事や役割について考える場の工夫をする。	・自律の心を養い、きまりを守ろうとする心を育てる。 ・目標に向かい努力を続ける不撓不屈の心を育てる。 ・働くことの大切さ感じ取り、責任ある行動をとろうとする心を育てる。	・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力の育成を図る。 ・学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方について考えることができるようにする。 ・仙北地区・盛岡・学習旅行先の施設や職業に携わる人々を訪ね、職業についての考え方について取材し、自らの職業観を醸成していく。	・集団活動を通して、自他の尊重に基づいた望ましい人間関係や個の確立をめざし、自主的、主体的な実践力を育てる。	・外国語を通じて、言語や文化についての理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする素地を育成する。

キャリア教育全体計画

盛岡市立向中野小学校

いわてキャリア教育のねらい 児童生徒が自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための能力を育成する。 「いわての復興教育プログラム」のなかの教育内容に位置付ける。	学校教育目標 「夢」「努力」「やさしさ」で 笑顔あふれる未来を拓く子 努力する子 やさしい子 協力する子	(児童の実態) ・明るく素直である。 ・自己のよさや生き方について見つめている子は少ない。 ・課題に向かってよく努力するが、人と関わり課題解決しようとする力は十分ではない。 保護者・地域の願い ・将来、自己実現を果たせるように基礎となる力を身に付けた子ども ・礼儀正しく、人のために進んで働く子ども
具体的な方策 ・キャリア教育に関わる教育課程の開発 ・体験的な学習の充実と資質向上 ・社会の仕組みや地域の歴史・産業等についての理解の促進 ・「生き方」について考える図書コーナーの充実を図る。		

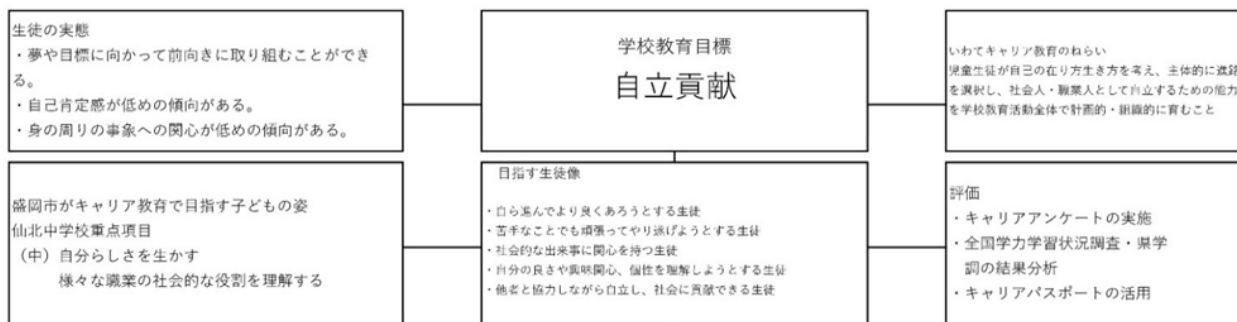
《キャリア教育目標》 人との関わりや活動を通し、自己のあり方や生き方を考え、働くことの楽しさや夢や希望に向かって努力することの大切さに気付く子どもを育成する。						
総合生活力			人生設計力			
健康・体力	豊かな人間性	確かな学力	社会を把握する能力	勤労観・職業観	将来設計力	
低学年	・健康や安全に気を付け、規則正しい生活ができる。 ・外で元気に遊び、体力向上に取り組む。	・気持ちのよい挨拶・言葉遣いなどに心がけて、明るく生活する。 ・基本的な学び方が分かる。 ・自分の考えをみんなの前で話す。 ・課題解決に向かって努力する。	・郷土に親しみをもち、郷土の先人に親しむ。 ・郷土を大切にする心をもち、郷土の先人(原敬)に学ぶ。 ・外国の人々や文化に関心をもつ。	・身近で働く人々に関心をもつ。 ・係や当番の活動を通して働く喜びを知る。	・好きなこと、得意なことできることを増やし、様々な活動に興味をもつ。	
中学年	・健康や安全に気を付け、規則正しい生活ができる。 ・外で元気に遊び、体力向上に積極的に取り組む。	・友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 ・解決方法や手順を選択して学習を進める。 ・協働して学ぶ。	・郷土を大切にする心をもち、郷土の先人(原敬)に学ぶ。 ・外国の人々や文化に関心をもつ。	・身近で働く人々に興味を持ち、その苦労や喜びを知る。 ・係や当番活動を通してみんなのために積極的に働く。	・将来の夢や希望をもつ。	
高学年	・健康や安全に気を付け、基本的な生活習慣を身に付け、自分の生活を見直すことができる。 ・外で元気に遊び、体力向上に目標をもって取り組む。	・身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して責任を果たす。 ・自ら自己課題の解決を進め、解決の成果を基に新たな課題を設定して取り組もうとする。 ・協働して学ぶ学び方等を定着させる。	・郷土を愛する心をもち、郷土の先人(原敬)の生き方に触れ自分自身を見直す。 ・日本や外国の文化に関心をもつ。	・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つことを行う。 [宝積活動]	・将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力しようとする。	

教科・領域等におけるキャリア教育の指導目標と内容				
各教科	道徳科	総合的な学習	特別活動	外国語活動
・基礎基本の力を身に付け学ぶ意欲を高める。 ・学習課題を発見し、追究し、課題解決能力を育てる。 ・伝え合い、学び合う態度を育てる。	・道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度などの道徳性を養う。 ・働くことの大切さを知り、進んで働く意欲を養う。 ・進んで公共のために尽くそうと態度を養い、社会に尽くそうとする心情を育てる。	・盛岡の学習素材や教科と関連した学習素材を機軸として、自ら課題を見付け、主体的に判断し、問題を解決しようとする心情を育てる。 ・学び方やものの見方を身に付け、問題解決に主体的かつ創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。	・望ましい集団活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	・外国語を通じて、言語や文化について深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
各学年の計画				

キャリア教育のための基盤			
キャリア教育推進のための共通理解	基本的生活習慣の確立	学年・学級経営の充実	保護者・地域との連携

キャリア教育全体計画

盛岡市立仙北中学校



目標		仙北中学校：生徒が自己のあり方、生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための態度や能力を育成する		
各学年の目標	重点	1 年生	2 年生	3 年生
		キャリア教育の基礎を培うために、『自己理解』の力を高める。	将来の生き方を体験的な活動を通して培うために、『自己啓発』の力を高める。	自分の生き方についてのまとめをし、『自己決定』の力を高める。
総合生活力	将来の社会人・職業人として必要な力を培う	・基本的な生活習慣を身につけ、健康的な生活を送ることができる。 情報活用能力：情報モラルへの意識を向上させ、実践力を育む		
	健康な人間性	・自分のよさや個性が分かる。 ・自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする。	・自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。	・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。
人生設計力	確かな学力	情報活用能力：情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用することを通して資質能力を育成する ・課題意識をもち、その解決に向け、自分の考えを発信しようとする態度を養う。 ・調べたこと・他から学んだこと・体験したことをもとに、自分の考えをまとめ、他に発信することができる。 ・各教科で得た知識や技能を相互に関連付け、生活や次の学習・自分の生き方に生かすことができる。		
	選自分から決定できる人生計画を立て、進路を	将来設計力 ・将来に対する漠然とした夢や憧れを抱く。	将来の夢を達成する上での現実の問題に直面し、検索する。	・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。
	社会を把握する	勤労観・職業観 ・集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。	・集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。	・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。
		世界の見方 世界の現状や防災の現状に目を向け、より良い未来を迎えるために解決すべき課題を見つけ、自分の考えを発信しようとする。	世界の見方 世界の現状や防災の現状に目を向け、より良い未来を迎えるために解決すべき課題を見つけ、自分の考えを発信しようとする。	世界の見方 世界やいわての課題と身近な課題を結び付け、持続可能な社会の実現のために自分たちには何ができるのか、行動化の手立てを考え、共に生きる未来を創造しようとする。

教科・領域等におけるキャリア教育の指導目標と内容			
各教科	道德教育	特別活動	総合的な学習の時間
★キャリアの視点をとり入れた授業づくり ・授業での知識・技能が社会で「生きて働く」ものであると実感できる授業 ・授業で得た「思考力・判断力・表現力」が未知の状況で活用できると実感できる授業	・道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの育成 ・授業の充実を通じた自己肯定感の醸成と向上 ・教育目標「自立貢献」の具現化	・集団や社会の形成者としての味方・考え方を働かせながら、様々な集団活動に主体的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育む。	・「自らに必要な情報を読み取る力」「自分の考えを持ち表現する力」「学びを生かす力」の育成 ・「自分の生き方について考えることができる授業づくり。

4 発達段階に応じた体験活動の充実

(1) 特別活動を要とした体験活動

ア 仙北小学校

「すずかけの夢～ドリームプラン～」

児童の「総合生活力」（社会人・職業人として自立して生きるために必要な能力）、「人生設計力」（主体的に人生設計を立て、進路を選択し、決定できる能力）を育成するため、地域人材と交流授業を設定した。

(ア) 1年生 チアダンス体験

児童の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、さまざまな活動に興味を持つことを目的とした。授業では、児童たちはプロのダンサーの振付を模倣し楽しく踊ることができた。

(イ) 4年生 ボッチャ体験

友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことを目的とした。はじめにパラリンピックの意味や歴史について学習した後、ボールを狙った場所に置く難しさを体感した。



(ウ) 5年生 グリーンキャンプ

児童が身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して責任を果



たすことを通して、豊かな人間性の育成を目標とした。

すべての活動を充実させるために規律を意識して行動する大切さを学び、互いに励まし合いながら、係活動や次の利用者を意識した清掃活動ができた。

(イ) 6年生 夢先生の講演会・職業体験

講演会を通じて、児童に将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力しようとする気持ちを育んだ。

また、グルージャの試合会場準備を行うことで、選手を支え試合を運営する側の貴重な体験を得ることができた。

(オ) 3年生 仙北のお祭りを調べよう

駒形神社の祭りについて、宮司様のお話を伺い、児童の関心を高めた。



また、舟っこ流しの舟の仕組みや由来について講師に質問しながら学んだ。



(カ) 『すずかけの夢集会』での発表

第1部では東日本大震災への認識を深め、「備える」ことの大切さについて考えた。第2部では、1年間の活動を通して、理想とする自己像にどれだけ近づけたかを振り返り、学年の代表者が、「すずかけの夢集会」で発表した。



イ 向中野小学校

(7) 原敬塾

向中野小は、第19代内閣総理大臣原敬の教え「宝積」を校訓に掲げ、児童の心を耕し「宝積の心」の育成に注力している。郷土の偉人でもある原敬の生涯を学ぶことにより、原敬の価値観・生き方・業績について理解を深め、自己の振り返りや目標設定の機会としている。

4年生「原敬の少年時代」

4年生は、主に少年時代の原敬を学んだ。原敬が江戸時代に生まれたこと、幼少期の名前（幼名）が「健次郎」ということなどから始まり、原敬の残した業績や生き方などについて理解を深めた。



5年生「原敬の職歴や業績」

5年生は、郷土を大切にすることを養うため、原敬から学びを深めた。児童は、原敬が大臣になるまでに沢山の仕事をしていたこと、不自由な人にお金を寄付するなど社会貢献に尽力していたこと、そして暗殺されたのは悲しいことであるものの、最後まで偉大な人物であったことなどについて感想を述べた。

6年生「原敬の活躍と生涯」

6年生は、4年生・5年生で学んできたことに加え、「人に尽くして見返りを求めない」原敬の生き方について、改めて考察した。学習発表会では、原敬の活躍と生涯を劇で表現した。

(イ) 仙北小鷹さんさを学ぶ（3年）

3年生は、総合的な学習の時間において「仙北小鷹さんさ」を学習した。保

存会の方々にご来校いただき、踊りの由来や種類についてご教示いただいた。さらに、調べ学習等を通じて学習を深め、踊りの成果は次年度の運動会で披露した。



(ウ) 夢の授業「ドリームマップ」（6年）

一日を通してすべての時間を用い、児童自身が自分とじっくり向き合い、自分らしい夢を地図に広げた。児童達は、自分にとって好きなもの、ワクワクするものなど、様々な「素材」を集めた。さらに対話を通して、なりたい自分を思い描き、それぞれドリームマップを作成した。



授業の締めくくりとして、一人ひとりがドリームマップを掲げ、皆の前で夢を語った。6年生の夢や目標は、今後ますます膨らむであろう。

(エ) 祈り・希望～3.11 希望のつどい～

宝積委員会の児童が中心となり、震災を「忘れない」こと、災害を自分事として捉え「備える」ことなどを確かめ合った。

つどいの後半では、5年生代表児童が総合的な学習の時間などで積み重ねてきた学びの成果を発表した。また、事前に将来の夢などを全校児童が書いた「ゆめカード」を、学年代表が読み上げた。最後は全校で「花は咲く」を歌い、祈りとともに希望あふれるつどいとした。

ウ 仙北中学校

(7) 1 年生

1 年生は、防災の現場に目を向け、未来を変えるために解決すべき課題を見つけ、自分の考えを発信しようとする態度を養うことを目標としている。

【新聞の読み方・作り方講座】

1 年生では、復興学習、SDGs について新聞を読んだり書いたりする際に役立てるため、盛岡の各新聞社に所属する新聞記者の皆さんを外部講師に招いて講座を開いた。それぞれの教室では、新聞の読み方



(紙面の特徴・記事の配置・見出しの付け方など) や記事の書き方、新聞社や新聞記者の仕事の内容などについて話を聞いた。

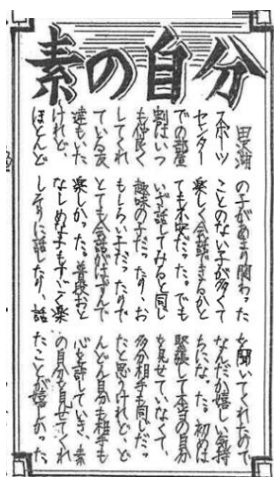
【いわての復興研修】



(4) 2 年生

2 年生は、いわてや身近な社会で働く人々の仕事への思いや、SDGs の視点を通して、社会貢献のあり方や課題を学び、周りに関わり合いながら、自らの生き方を考えようとする態度を養うことを目標としている。

【宿泊研修】

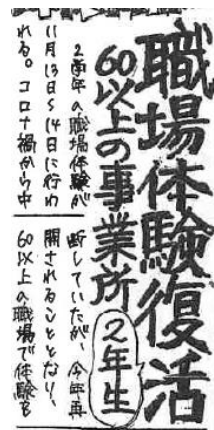


【未来図書館】



【職場体験学習】

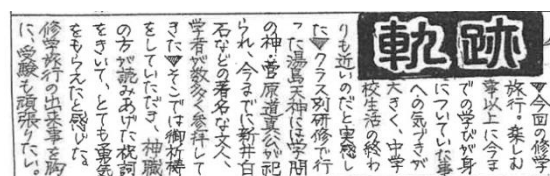
2 学年約 200 名は、60 以上の事業所で体験を行った。多くの方々の好意に支えられ、学習の機会を与えていただいたことに感謝しながら体験することができた。



(5) 3 年生

3 年生は、いわての課題と身近な課題を結びつけ、持続可能な社会の実現のために、自分たちには何ができるのか、行動化の手立てを考え、共に生きる未来を創造しようとする態度を養うことを目標としている。

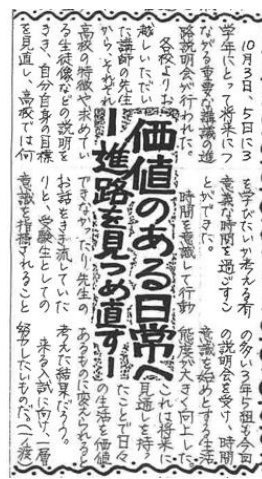
【修学旅行】



【私の SDGs 取り組み】



【進路実現】



(2) キャリアパスポートの活用

小中連携のキャリア教育において、キャリアパスポートは、児童生徒の学びを小・中学校の9年間を通して系統的につなぐ中心的なツールとなる。学びの継続性を確保し、児童生徒の自己理解を深めるために、活用を工夫した。

ア 小学校における活用

小学校では、キャリアパスポートを活用して、児童が自分自身の個性や学びの記録を蓄積し、将来への見通しを持つための基礎を培うものと捉えている。仙北中学校に進学する両校は、令和6年度からキャリアパスポートの様式を統一した。

(ア) 年度ごとの振り返り

学期末や年度末に、学習活動や学校行事、係活動などを振り返り、自分の成長や変化を記録した。

2 この1ねんで、一ばん たのしかったことと、 りゆうを かきましよう。

この1わんで一ぱんたのしかったことはおん
がくさいです。トトロのえんそうを
じょうずにひけたのがたのしかったです。

2 この1年で、一ばん 楽しかったことと、 切ゆうを かきましょう。

なかよしあそびです。わけは、6年生から1年生のみ
なで、さごうくや言葉み聞かせなど、お楽しみ会じゃない
と、できないことができるからです。

○1年間をまとめましょう

この一年で、一番楽しかったことと、その理由

音楽祭が楽しかったです。理由はみんなで楽しく歌ったり楽器でえんそうしたりすることができたからです。

この一年で、できるようになったこと
なちとびで、にじゅうとびやこうさとびまで
できるようになりました。あと、前よりもタイピングが上手
にできるようになりました。

この一年で、がんばったこと（学校で、家で、習い事で、地いきで）
 ピアノでできるだけ毎日練習することがかんばり
 ました。あと学校で、無言そうじもがんばりました。

(1) 「なりたい自分」を考える

学年の始まりと終わりに「なりたい自分」という視点から目標を立て、1 年間の取り組みを振り返る機会を作った。

「○こんな自分になりたい！！」

こんな自分になりたい
(学習) テストで100点を
とりたいです。

そのためにすること
ならったべんきょうを何回
も1シートに書くことです。

みんな（学級）のためにがんばりたいこと

チョコラをたくさんしたいです。

○なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふりかえりましょう。

(学習)

計算の問題や漢字を書く問題が1学期のころよりもとくのがはやく
なっていたり漢字をしっかりと覚えて、おそれないようにしていたりしたので
ありがたい自分は少しづつ伸びているのかなと思います。

(生活)
学校や地いまであそんであはさつをし、思いりの心をもって、生活
することができたのでよかったと思います。

(ウ) 体験学習の記録

運動会 自分のおぼえて
せんきとおどりは、ふりつけをおぼえて、
きれいなおどりにしたいなと
思っています。ときを待た、はやく走れ
るようにがんばります。

ふりがあり	1番目 ○・○・△
① かんばつたことまで書くとはい何ですか。 さんやあーい、わがやうに書いて、きいたおとこに するをかんばつて、さるの物はおはよよりよく されたいとおりのけん習をするのでききました。	<input type="radio"/>
② これからもかんばついいといは何ですか。 外で体育をした時に先生が話している時は先生の方 をも聞いて話を聞くことです。	2番目 ○・○・△

1. 目標に対して、達成できなかったことやがんばったことは何ですか。
 応援をがんばりました。理由は、チーム
の人たちの目をしっかりと見て本気にな
ってできたからです。

2. どんなことが心に響きましたか。
 応援の目から心に響きました。それは、かけ声や、
タイミングなどしっかりと告げることができて、
2位に変わったからです。

学年の目標

6年間て身に付けた力を全力で合わせて、音楽祭を成功させよう、
自分の目標（小学校生活最後の音楽祭に向けて大切にしたいこと）

合唱：声の高さと低さに注意して、きれいに歌えるようにする。
合奏：音の出しやすさを自分なりに工夫して、きれいに演奏できるようにする。

① 目標に向けて、達成できたことやがんばったことは何ですか。


② 合唱では、声の高さと低さに注意して歌うことができていました。合奏では、音の出しやすさを自分なりに工夫して、きれいに演奏することができました。

③ がんばることがあったら教えてください。

小学校生活最後の音楽祭で全力で頑張りたいけど、練習で勉強したことが自分の目標を達成して、合唱と合奏をすることによってできたこと。

④ これからの学校生活にどう活かしていきますか。

卒業式などの行事で、目標を達成して練習も本番のようにできるように、今まで身に付けた力を全力で合わせることによって、自分らしい学校生活を送りたいです。



イ 中学校における活用

中学校では、小学校からの記録を活用して、より具体的に将来を展望する力を養うことに重点を置いた。

(7) 自己評価と目標設定

教科の学習や部活動、行事などの活動を通じて、自分の興味や関心、能力を深く自己評価し、今後の課題や目標を立てた。

身に付けた力(目標) その1 (総合生活力) 人間関係調整能力	そのために 自分足りない力をみつけて、それを補うために、 存在と見つけて、その人にあった言葉を 感じて、自分自身を成長させていく。
身に付けた力(目標) その2 (人生設計力) 職業適性判断力	そのために この職業が、自分の能力と最大限に 発揮できるかどうかを考えた。その 結果、人間関係が上手な人
その他(家庭・地域、資格取得など目標) 向上心	そのために 目標を達成するために、自分から 行動し、がんばり、努力を怠らな い。そして、目標を達成したとき、 達成感を感じ、その喜びを分かち合

(4) 学期、年度ごとの振り返り

自分の立てた目標を振り返り、将来の生き方と今の生活について具体的に考えた。さらに、進級時には目標の再設定をした。

〇各項目の振り返りと、今後、挑戦・行動しようと思うこと

総合生活力(身に付けた力) その1 前回の目標達成率を振り返る。人間関係 調整能力を、実際に活用できた。自分 自身、より自信を持って行動する ようになった。	今後は 前回の目標達成率を振り返る。自分 自身、より自信を持って行動する ようになった。人間関係を調整する 能力を、実際に活用できた。自分 自身、より自信を持って行動する ようになった。
人生設計力(身に付けた力) その2 前回の目標達成率を振り返る。職業 適性判断能力を、実際に活用できた。 自分自身、より自信を持って行動する ようになった。	今後は 前回の目標達成率を振り返る。自分 自身、より自信を持って行動する ようになった。職業適性判断能力を、 実際に活用できた。自分自身、より 自信を持って行動するようになった。
その他(家庭・地域、資格取得など目標) やりたかったことを、実際に行動した。 自分自身、より自信を持って行動する ようになった。	今後は やりたかったことを、実際に行動した。 自分自身、より自信を持って行動する ようになった。資格取得など目標を、 実際に行動した。自分自身、より 自信を持って行動するようになった。
今学期を振り返って、新しく発見したこと、気付いたこと 今学期は、いろいろなことにチャレンジした。その結果、自分自身、より 自信を持って行動するようになった。人間関係を調整する能力を、 実際に活用できた。自分自身、より自信を持って行動するようになった。	
家の人からのメッセージ 2学期は、前学期よりも、人間関係を調整する能力を、実際に活用できた。 自分自身、より自信を持って行動するようになった。人間関係を調整する 能力を、実際に活用できた。自分自身、より自信を持って行動する ようになった。	

(9) 進路学習での活用【本紀要 p. 26 参照】

3学年の特別活動では、単元の導入で9年間のキャリアパスポートを振り返り、

自己理解を深めた。この活動では、生徒は主に次の内容を考えて。

- 自分の得意なことや他者からの評価
- 小・中学校での努力や活動の振り返り
- 大切にしたい価値観や人間関係
- 自分の特徴や性格のまとめ

生徒たちは、単元の学習を通して自己成長を確認し、将来に向けた具体的な行動計画を立てた。また、自分の強みや課題を認識し、改善点を見つけた。さらに、自分の考えを他者に伝えることで将来の目標や志望校について整理することになった。

ウ 小中間の連携を深める活用

(7) 引き継ぎの円滑化

小学校の卒業時に児童を通じて中学校へキャリアパスポートを引き継ぐことで、中学校の教師は入学前の生徒理解を深めることができる。中学校区でキャリアパスポートの様式を揃えることにより、中学校での活用が円滑となった。

(4) 9か年全体計画の策定

小・中学校が共通の視点を持ち、9年間を見通したキャリア教育の全体計画を共有することで、キャリアパスポート活用においても一貫した指導を行った。

5 キャリア教育の視点を位置づけた授業実践交流

(1) 研究1年次の授業実践交流について

研究1年次は、各学校で計画していた校内研究会の実施を情報共有し、授業参観や、研究会に参加した。また、授業実践記録の様式を統一し、研究会終了後に、キャリア教育の視点で授業実践の振り返りや、実践内容を共有した。

ア 仙北小学校

(7) 1年算数科


1年

算数科

ひきざん

1 単元の目標	11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
2 児童の実態	算数の学習に意欲的に取り組み、前単元の3つの数の計算では、問題文にあわせてブロックを操作しながら式を考えることができた。しかし、ブロックや図で表した考えを自分の言葉や式で表すことが苦手な児童が一定数いる。計算の過程について友達と同じように動かすことはできても、その意味まで考えることが苦手な児童もいる。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	<p>【総合生活力】確かな学力（課題解決力）</p> <p>ペアやグループでの交流を通して、課題についての友達の考えを聞き、自分の考えに生かそうとする力。</p> <p>自分の考えを、図や式を指し示しながら、友達に分かりやすく説明する力。</p>

4 本時について

目標	数の構成に着目し、「10といくつ」という見方・考え方を働かせて、ブロックや図を用いながら説明する数学的活動を通して、繰り下がりのある減法計算についての考えを深めることができる。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 課題把握		<p>導入で子どもたちと対話しながら進めることで、既習の「10からとる」という考え方以外の「ばらからとる」という新しい考え方を見つけることができた。</p> 
	<p>12-3のけいさんのしかたをかんがえよう。</p>		
展開	2 自力解決	<p>確かな学力（課題解決力）</p> <p>ペアやグループでの交流を通して、課題についての友達の考えを聞き、自分の考えに生かそうとする。</p> <p>自分の考えを、図や式を指し示しながら、友達に分かりやすく説明する。</p>	
	3 共同思考		
終末	4 まとめ		
	5 深める（適用問題）		
	6 振り返り		

5 児童の変容と考察（キャリア教育の視点から）

「10のまとまり」や「ばら」という言葉を意識的に使って説明することにより、数の構成に着目して計算方法を考えることができた。また、説明を短い言葉にまとめ、繰り返し対話活動を行ったことで、ブロックや図を用いながら説明できるようになった。その際、ブロック、図、言葉とそれぞれ独立して考えている子が多かったため、子ども同士で説明し合ったり、友達が操作している姿を見ながら説明したりしながら定着させていくと、より分かりやすく説明する力をつけることができたと考えられる。

(イ) 6 年小学校外国語科


6 年

外国語科

単元名：My Best Memory 小学校生活の思い出アルバムを作ろう

1 単元の目標	相手のことをよく知るために、小学校生活の思い出について、短い話を聞いて概要を捉えたり、自分のことをよく知ってもらうために、話す内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話したりすることができる。
2 児童の実態	外国語で自分の伝えたいことを表現したり、コミュニケーションを図ろうとしたりする活動を重ねてきた結果、外国語を好きな児童は多い。その一方、「正しく・スムーズに言いたい」という言語面に関心を寄せる児童が増えてきていることから、言語活動の充実を図る上で、言語面はもちろんだが、内容面に力を入れていく必要がある。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】確かな学力（コミュニケーション力） 小学校生活の思い出アルバム作りを通して、相手のことをよく知ったり、自分のことをよく知ってもらったりすることに生かすために、これまでの学習や経験から使えるような英語表現を考え、主体的に交流しようとする力。

4 本時について

目標	学校行事などの言い方や小学校生活の思い出を伝える表現について理解することができる。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 挨拶をする。 2 Small Talk 3 Let's Chant 4 めあてを把握する。	思い出をたずね合おう。	
展開	5 Let's Think 6 Let's Try① 【小学校生活で1番の思い出についてたずね合おう】 7 Let's Try② 【小学校生活で1番の思い出を紹介しよう】	確かな学力 (コミュニケーション力) 小学校生活のいちばんの思い出を紹介し合う活動を通して、相手のことをよく知ったり、自分のことをよく知ってもらったりすることに生かすために、これまでの学習や経験から使えるような英語表現を考え、主体的に交流しようとする。	
終末	8 活動を振り返る。 9 挨拶をする。		【子どもの振り返りから】 ・今日はenjoyedとIt wasを2つ使うことができました。次はもっと付け足したり分かりやすく英語で伝えたりできるように頑張りたいです。 ・今日私ができたことはwith myを付け足して話すことです。英語をより詳しくして話すことを意識しました。Sさんみたいにどんどん言えることを増やしていきたいです。

5 児童の変容と考察（キャリア教育の視点から）

授業の前半にゲーム的な活動を入れ、何度もフレーズを使わせた。ゲームの途中には中間指導を何度か行い、フレーズの間違いを正しくしたり、言えなかったことや迷ったことを学級で共有したりしたことで、より詳しく友達に伝えようとした。また、授業の後半の言語活動にも中間振り返りを入れ、内容面と言語面の両面を充実させたことにより、自分のことを今より知ってもらおう、相手の話をよく聞こうという意識をもって、主体的に英語で友達と交流しようとする姿が見られるようになった。


イ 向中野小学校

(7) 特別支援学級生活単元

知的学級	生活単元	単元名：ハッピースマイルカフェを開こう
------	------	---------------------

1 単元の目標	<p>○育てたさつまいもを使って調理したり、お店を開いたりすることでその楽しさや喜びや達成感を体験することができる。</p> <p>○友達と協力し合いながら相談したり準備したりする中で、コミュニケーション能力を育むことができる。</p> <p>○目的に向けて知りたいことを調べたり、まとめたり、発表したりすることができる。</p> <p>○生活に必要な知識や技能を獲得し、身に付けた内容を生活の中で生かしていくことができる。</p>
2 児童の実態	<p>これまでの生活単元学習の積み重ねで、今年はどうなことをしたいのかを考え期待感を持って学習に取り組んでいる。在籍変更した児童も、初めての生活単元学習への興味関心があり、楽しみにしながら学習に取り組んでいる。</p>
3 この単元で付けたいキャリア教育の力	<p>【総合生活力】豊かな人間性 友達と関わり、協力しながら行動し実践する力。 確かな学力 自分の知識や学びを自覚する力</p> <p>【人生設計力】勤労観・職業観 活動を通して働く楽しさを知ったり、喜びを実感したりする力。</p>

4 本時について

標 目	おもてなしの言葉をゆっくりはっきりと話すことができる。		
段階	学習活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料）
導 入	1 めあてを確かめる。		
	<div>おもてなしの言葉をゆっくりはっきりと話そう。</div>		
展 開	2 ロールプレイをする。	【確かな学力】 自分の知識や学びを確認する。	<div> <div><児童の振り返りより></div> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは、僕の目に目を合わせて話してくれた。何も見ないで話をしていたので、よかった。 ・前の振り返りは、50パーセントだったけれど。今日は完璧。2人ともとても聞きやすかったし、分かりやすかった。 </div>
	3 ペア学習をする。 ① スマ3組が店員役 スマ4組はお客役 ② スマ3組が店員役 スマ4組はお客役	<p>豊かな人間性（総合生活力）</p> <p>【人間関係調整力】 友達と関わり、協力しながら学習したり行動したりする。</p>	
終 末	4 本時の振り返りをする。	【自己肯定感・向上心】 学んだことから、自分や友達のよさに気付く。	

5 児童の変容と考察（キャリア教育の視点から）

すべての児童が、店員役とお客役を経験できるように組むことで、どの児童も最後まで意欲的に学習に参加することができた。また、ICTを活用して表情や話し方の練習を行ったり、単元の中で段階的に役割や動きを指導しながら取り組ませたりしたことで個々の意識が高まり、できるという自信につながった。ペア学習前のロールプレイで、おもてなしの言葉を意識させるために全体指導を行うことで、ペア学習でどのようなことに気を付ければいいのか明確になり、相手と関わり合いながら進めることができた。振り返りの場面でも、相手を意識させることで自分や友達の変容が明確になり、ペアの友達とよくなったところやがんばったところを認め合ったり、励まし合ったりすることができた。

(イ) 3年国語



3年

国語科

単元名：例の書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

1 単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> 比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
2 児童の実態	書かれていることについて答えることができるが、自分の考えをもったり伝えたりする児童が固定化している。また、内容のまとまりを考えて段落をつけて書くことに苦手さを感じている児童が多く、表現力について課題が見られる。
3 この単元で付けたいキャリア教育の力	【総合生活力】（確かな学力） 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりや、段落相互の関係について自分の考えをもち、表現する力。

4 本時について

目標	例がどのような順序で書かれてあるかを考え、事例の順序と筆者の意図を関係づけて考えることができる。		
段階	学習活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料）
導入	1 前時の学習を想起する。 2 本時の課題と学習の流れを確認する。 筆者は、なぜこのじゅんじょでれいをあげたのだろう？	確かな学力（総合生活力） 【課題解決力】 自分の知識や学び方を自覚する。	  ・書いた手紙をロイロノートに提出し、友達と考えを共有する。 <div> 【児童の振り返りから】 ・例は、ただ並べるのではなく、筆者の考えがあることが分かりました。 ・「食べ物へんしんブック」を書くときにも、相手に分かりやすい順で、例をならべていきたいです。 </div>
	3 課題解決の見通しをもつ。		
展開	4 事例説明の順序の意図を考える。	確かな学力（総合生活力） 【課題解決力】 自分の考えをもち、表現することができる。	
	5 順序で例の理由について学んだことを、筆者に伝える手紙に書く。		
終末	6 本時の学習を振り返る。	豊かな人間性（総合生活力） 【自己肯定感・向上心】 友達の考えのよさや自分の学びを実感する。	
	7 次時の学習への見通しをもつ。		

5 児童の変容と考察（キャリア教育の視点から）

段落の初めに書かれている、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」の順序を表す言葉に着目させるなど、本文に書かれていることを全体で共有したことで、自分の考えをもったり、内容のまとまりを考えて段落をつけて書いたりすることにつながった。また、ICTを用いて、友達と考えを共有し、協働的に学んだことが、自分の考えをもつことにつながった。単元を通して、言葉に着目する力が高まったことで、自分の考えをもち、表現する力が向上してきた。

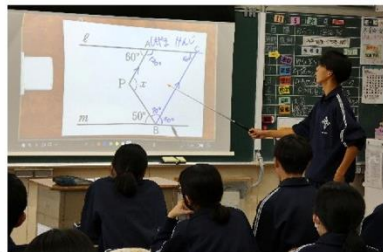
ウ 仙北中学校の授業実践

(7)2 年数学

2 学年	数学	単元名 平行と合同
------	----	-----------

1 生徒の実態	既習事項を応用させて考えることを苦手とする生徒が多いが、図形領域の角の大きさを求めることについては、視覚的に捉えることができるため、他の領域に比べれば意欲的に取り組む姿が見られる。
2 単元のねらい	角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。
3 めざす生徒の姿	課題を発見・設定し、見通しをもって自分の考えをもち、他者とも考えを交流しながら、課題を解決することができる生徒。
4 この単元でつけたキャリア教育としての力	(総合生活力：確かな学力) 平面図形の性質のよさを実感して、学んだことを生活や学習に生かそうとする

5 単元の内容 (7/15 時間)

	学習内容	【キャリア教育の視点】と手立て	指導の実際 (資料・記録)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 角度についての既習の性質を確認 黒板に図 (性質) を準備し、いつでも確認できるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の発表を聞き、自分の意見を話す中で総合生活力 (豊かな人間性)を高める。 	<p>前時の学習内容を確認する</p> 
展開	<ul style="list-style-type: none"> 学習シートの図を見せ、$\angle x$ の大きさをいろいろな方法で求めさせる 個人で考えた求め方を班で交流し、出てきた考え方を用紙に記入し黒板に貼り、発表する 様々な求め方の共通点や違いは何かを考える 学習シートの問題に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の発表を聞き、自分の意見を話す中で総合生活力 (豊かな人間性)を高める。 共通点を考え、問題に取り組むことで、総合生活力 (確かな学力)を高める。 	<p>↑班でまとめた方法を発表する生徒</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【授業研究会 助言より】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「焦点化して課題を与える」という他の教科にも応用できる授業だった。課題が明確で、生徒が思考を止めることなく生き生きと問題に取り組んでいた。 説明を生徒に考えさせる授業は、生徒の興味関心が高くなり、主体性も増してくる。 </div>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を振り返り、自分の言葉でまとめを記入させることで、総合生活力 (問題発見解決能力)を高める。 	<p>練習問題を行うことで、理解できているか確認を行った。</p>




6 キャリア教育の視点からの児童の変容と考察

<ul style="list-style-type: none"> 個人では思いつくことができなかった解法を知ること、課題解決に対する意識が高まった。 班や全体で解法について発表、交流することで、お互いの考え方の違いに気づき、他者への理解が深まった。
--

(イ) 全学年特別活動

全学年	特別活動	単元名 情報メディアとの上手な付き合い方
1 生徒の実態	教科に関わらず積極的に取り組む生徒が多い。インターネットを日常的に利用しており、スマートフォンの所持率も高く、SNS 上でのやり取りがトラブルに発展したこともある。	
2 単元のねらい	身近に潜むネットトラブルについて理解させるとともに、よりよい情報メディア利用の姿勢について考えさせる。	
3 めざす生徒の姿	課題を発見・設定し、見通しをもって自分の考えをもち、他者とも考えを交流しながら、課題を解決することができる生徒。	
4 この単元でつけた いキャリア教育としての 力	(総合生活力：確かな学力、情報活用能力) 情報メディアとの上手な付き合い方について考え、実践することができる。 社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることについて理解することができる。	

5 単元の内容 (2 / 2 時間)

	学習内容	【キャリア教育の視点】と手立て	指導の実際 (資料・記録)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の確認 身の回りの情報メディアは？ どんなネットトラブルがありますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の発表を聞き、自分の意見を話す中で総合生活力（豊かな人間性）を高める。 	 <p>「青少年のネット利用の現状とトラブル・危険性」</p> <p>ネットトラブルについてあまり知らないことに気づかせる</p>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 未来の日本の姿について知る 青少年の犯罪被害の現状を知る 身近に潜むネットトラブル ワークシートに記入しながら考える 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット利用の現状などを知ることで総合生活力（確かな学力）を高める。 他者の発表を聞き、自分の意見を話す中で総合生活力（豊かな人間性）を高める。 	 <p>1、日常生活でやってはいけないことはインターネットでもやってはいけない。</p> <p>メールの宛先、メールのやり取り、インターネット、インターネット</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 情報メディアと上手に付き合うためには 本時の感想 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を振り返り、自分の言葉でまとめを記入させることで、総合生活力（問題発見解決能力）を高める。 	 <p>1、日常生活でやってはいけないことはインターネットでもやってはいけない。</p> <p>● 正しく知る ● ルールを守って行動する</p> <p>日常生活でやってはいけないことはインターネットでもやらない!</p> <p>スライドや動画を効果的に活用し、適宜止めながら説明を入れる</p>

6 キャリア教育の視点からの児童の変容と考察

<ul style="list-style-type: none"> 今まで知らなかった事実を知ること、自分の考えを再構築することができたようである。 自分が感じたことを発表し合い、教師がその良さを評価することで、お互いの良い点を認め合い、自信につながったと思われる。
--

(2) 研究2年次「仙北中学校授業交流会」

仙北中学校を会場に仙北小学校、向中野小学校の教員が参集し、小中合同で仙北中学校授業交流会を5月に実施した。各校のキャリア教育の取り組みについて全体会で交流した他、数学・理科・特別


活動・特別支援自立活動・音楽・技術・保健体育の7分科会において授業参観・授業研究会を実施した。小中共同事後アンケートには、スクールエンジンを活用した。

ア 授業実践

(7) 2年音楽

2 学年	音楽	単元名 歌唱「夏の思い出」
1 生徒の実態	歌うことが得意ではない生徒も多いが、新しい仲間と、合唱を通して高め合える学級になりたいと考えている生徒が多い。	
2 単元のねらい	情景を思い浮かべながら、言葉を大切にしながら歌う。	
3 めざす生徒の姿	課題を発見・設定し、見通しをもって自分の考えをもち、他者とも考えを交流しながら、課題を解決することができる生徒。	
4 この単元でつけたキャリア教育としての力	(総合生活力：確かな学力、豊かな人間性) 「夏の思い出」の歌詞の内容や旋律と強弱の関りに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、日本の歌曲に親しむ。	

5 単元の内容 (2/2時間)

	学習内容	【キャリア教育の視点】と手立て	指導の実践 (資料・記録)
導 入	○前時の学習内容の想起。 (歌詞内容、曲の背景)	・他者の発表を聞き、自分の意見を話す中で、 総合生活力(豊かな人間性) を高める。	 <p>↑ 実際に演奏し合っている様子</p> <div> <p>【授業研究会の記録より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の意味を考えさせ、交流しているところがよかった。 (自信をもって演奏 →他者を認める) ・ほかのグループの発表を聞いて、感想を発表しあうことで互いの良さを認め合うこと、このことが人間関係作りにつながると思われる。 </div>
展 開	○ワークシートをもとに、各フレーズをどのように歌いたいかを考える。 ○学級全体やグループで、ふさわしい歌唱表現を工夫して歌う。 ○交流する。 ○個人で考え、発表する。	・歌詞や旋律、記号などから、どのように演奏すればよいかを考え、実際に、演奏してみることで、 総合生活力(確かな学力) を高める。 ・他者の発表を聞き、自分の意見を話す中で、 総合生活力(豊かな人間性) を高める。	
ま と め	○本時の振り返り	・自分の言葉でまとめを記入させることで、 総合生活力(問題発見解決能力) を高める。	



6 キャリア教育の視点からの児童・生徒の変容と考察

歌詞の意味を考えさせ、他者と交流することで自信をもって演奏できたり、各グループの演奏の感想を発表し合ったりすることでお互いの良さを認め合うことができ、豊かな人間性が育まれた。

(イ) 1 年数学

1 学年	数学	単元名 1 章 正負の数
1 生徒の実態	毎時間集中して課題解決に励んでおり、学習態度も概ね良好である。字が乱雑な生徒は何名かいるが、極端に遅れが見られる生徒はいない。比較的誰とでも話せる生徒が多く、グループでの話し合いも円滑に進めることができる。	
2 単元のねらい	数の範囲を正の数と負の数にまで拡張し、ひろげた新しい数の範囲での数の大小や四則等について考える活動を通して、正負の数をより深く学ぶ。	
3 めざす生徒の姿	学習課題に対して必要感・有用感をもち、主体的に課題解決に励み、自分の考え方と他者の考え方を比較しながら、より合理的な解法を理解・利用することができる生徒。	
4 この単元でつけた いキャリア教育としての 力	(総合生活力：確かな学力、豊かな心) ・数学の土台となる正負の数の概念や計算技能を身につける。 ・中学校での学びのスタイルを構築させ、協働的に学べる人間関係を築く。 (人生設計力：社会を把握する能力、将来設計力) ・自分たちの生活のあらゆるところで正負の数が使われていることと、正負の数の有用性について理解する。	

5 単元の内容 (20/22 時間)

	学習内容	【キャリア教育の視点】と手立て	指導の実例 (資料・記録)
導 入	○バレーボールの試合の勝敗を予想する。 ○両校のスタメンの平均身長を求める。	・データを比較することによって予想ができることを理解させ、 人生設計力(先見性) を高める。	平均身長を求めている様子 (ノート) 
展 開	○「身長之和÷6」以外で平均身長を求める。 ○正負の数を(負の数も)使って平均身長を求める。 ○類題に取り組む。	・今年度の新入生学調で出題された平均身長を求める考え方に触れる。 ・考え方を他者と交流する中で 総合生活力(確かな学力、豊かな人間性) を高める。 ・この時間で学んだ解決方法を活用することで 総合生活力(確かな学力) を高める。	 ← 板書し、自分の考えを発表する。 【授業研究会より】 ・たくさんのやり方を見つけ、そこからそれぞれのよさに気づかせていた。「どのやり方が好き？」という問いかけ。(自分のやり方を見つける) = 人生設計力 ・よさを周りの人と話し合う一分からない子が分かる。分かる子の理解力が上がる→確かな学力
ま と め	○振り返り	・本時の学習を自分の言葉で振り返ることで 総合生活力(問題発見解決能力) を高める。	

6 キャリア教育の視点からの児童・生徒の変容と考察

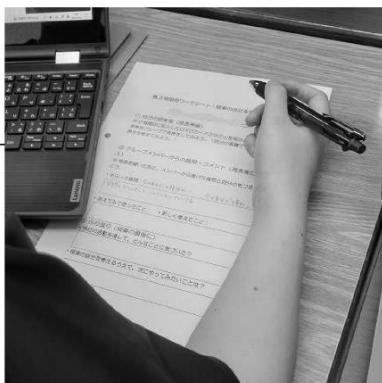
実測値から平均値を求めるより、平均値に近い値を基準にして仮平均を求める方が効率よく計算できることを実感し、それぞれのよさについて理解を深め、状況に応じて方法を選択してよいことを学んだ。
--

(ウ)3 学年特別活動

3 学年	特別活動	単元名 自分のこれまでとこれからを考える
------	------	----------------------

1 生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識は高く、全員が高校進学希望であり、8割が全日制普通科を志望。 ・自己の個性や興味と進路（高校卒業後含む）を結びつけられている生徒は数名。 ・授業での挙手や発言は数名が積極的である。 ・進路目標は高いものの、主体的な行動や深い自己理解を促す必要がある。
2 単元のねらい	話し合いを通して、自分の良さに気づき、将来の職業や目標について、自分の言葉で、積極的に語ろうとする態度を身につける。
3 めざす生徒の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を他者と比較するのではなく、「自分の軸」で考える姿勢で臨む。 ・自分の進路や生き方について、他者との対話を通じて言語化する。 ・三者面談で「自分の言葉」で将来を語ることへの自信を育む。
4 この単元でつけた キャリア教育としての 力	<p>（総合生活力：自己理解力、自己表現力、将来設計力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの振り返りを通じて、自分の特性・興味・価値観を明確にする。 ・三者面談で「自分の考えを親と共有できる」姿勢・力を育てる。

5 単元の内容（3／4時間）

	学習内容	【キャリア教育の視点】と手立て	指導の実際（資料・記録）
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○前時のペア活動を振り返る。 ○自己の「特技」「頑張ってきたこと」「将来のイメージ」を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを振り返り、自分の価値観や得意なことを再確認する力を養う。 ・他者からの気づきを共有し、自分の新たな側面に気づく視点を育てる。【総合生活力・自己理解力】 	 <p>↑自分の将来像を言語化している様子</p>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○グループでの対話を通じて、自分の考えを整理する。 ○対話の内容をもとに、自分の将来像を簡潔に言語化する。 ○発表を通して自己表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の話をよく聞き、共感や質問を通して、自分の考えを深める力を養う。 ・自分の思いや考えを声に出して伝え、自信や自己肯定感を育てる。【総合生活力・対人間関係形成力】 ・対話や経験をもとに進路や将来を考え、自分なりの目標を見つける力を育てる。【人生設計能力・意思決定力、課題解決力】 ・発表を通じて、自分の考えをわかりやすく伝える力を養う。 ・緊張と達成感を体験し、自己肯定感と主体性を高める。【総合生活力・自己表現力】 	
ま と め	○本時をふり振り返り、自分の成長や今後の課題に気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループや発表を通して感じたこと、発見したことを整理して記述することで、自分の成長や今後の課題に気づく力を高める。【総合生活力・メタ認知力】 	

6 キャリア教育の視点からの児童・生徒の変容と考察

生徒がキャリアパスポートを活用し、自分の小学校からこれまでの経験をもとに振り返る活動を通して、自分の特性や興味のあることについて考えを深めることができた。

イ 授業交流会の振り返り

【参加者の感想より】

- ・ 普段の授業をキャリア教育の視点で捉え直し、実践することで、すべての教科や領域でキャリア教育の効果的な実践が可能であることを実感した。
- ・ 授業においては、生徒が自己決定すること、他者の考えを受け入れること、よりよい解決策を見いだすこと、自分自身について抵抗なく話すことなど経験させることが、総合生活力の「豊かな心」の育成につながると再確認し、授業改善の重要性を認識した。
- ・ キャリア教育は、「生活とのつながり」「自立的に学ぶこと」「自分の生き方への希望」が、3つのポイントであると感じた。
- ・ キャリア教育は特別なことを行うのではなく、日常的な授業や活動を充実させることが、三つの資質能力の育成（「生きて働く知識及び技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」）につながることを再確認した。より主体的対話的で深い学びを実現する授業改善が常に必要であると感じた。
- ・ 9年間を見据えたキャリア教育のゴールの姿となる授業をもとにした実践交流会は、児童生徒の発達段階や系統性についての認識を深め、小中学校間で協働できることも含め、今後取り組むべきことを再考する貴重な機会となった。
- ・ 数値では表れない児童生徒の成長が

自覚できるキャリアパスポートを題材とした授業から、その効果的な活用について小中学校間で連携して検討する必要性を感じた。

6 キャリア教育の視点を踏まえた小中交流事業

(1) 小中あいさつ運動

年に3回、中学校のリーダーがそれぞれの小学校を訪問し、小学校のリーダーと共に合同であいさつ運動を実施した。

【感想の一部】

- ・ 元気にあいさつを返してくれてうれしかった。普段からあいさつを大切にしていきたい。
- ・ 改めて心を込めてあいさつをするこの大切さを学んだ。
- ・ 今回の活動を通して、普段から「自分から先に」あいさつをしたいと思うことができた。

向中野小学校では、中学生の自主的なあいさつを参考に「MAH」の活動を実施した。「MAH」とは、「向中野あいさつひろめ隊」の略で、できる人ができる時にやるという考え方に基づいている。

仙北小学校では、小中あいさつ運動を契機とし、児童会執行部が全校集会で気持ちのよいあいさつを行うことを呼びかける劇を上演した。この活動が学年のあいさつ運動へと発展し、児童はあいさつに課題意識を持ち、積極的に取り組むようになった。

仙北中学校では毎月、生徒会執行部の呼びかけで、専門委員会や各学級が昇降口前であいさつ運動を実施している。

(2)「メディア視聴利用のルール」の見直し

7年前、三校のPTAにおいてルール策定が実施された。今回、児童会・生徒会がこれまでのルールを精査し、主体的に啓発活動を行い、ルールの遵守を促進することとした。PTAの役員会においても、ご意見を賜り、児童・生徒、保護者、学校関係者の三者で共有し、各々の問題意識として捉えたルールとなった。

メディア視聴利用のルールの末尾には、メディアの利用に関する責任の第一義は保護者です。見守りとご指導をよろしくをお願いします。」というコメントを、中学校区の校長からのお願いとして付記した。

【令和6年度】

〈1学期〉児童会・生徒会で見直し

〈2学期〉精査結果を職員・全校生徒で確

認・承認。PTA役員で確認・承認。

〈3学期〉「メディア視聴利用のルール」の再確認。保護者への協力・依頼。生徒会執行部が「メディア視聴利用のルール」に基づき「仙北中学区SNSマナーアップ宣言」を作成。小学校にも呼びかけを行い、同一内容で取り組むことにした。また、「メディア視聴利用のルール」「仙北中学区SNSマナーアップ宣言」を地域の方々にお知らせした。

【令和7年度】

- ・4月に児童会・生徒会が「メディア視聴利用のルール」「仙北中学区SNSマナーアップ宣言」の啓発活動を実施した。
- PTA総会においても再確認した。
- ・三者面談で「メディア視聴利用のルー

ル」「仙北中学区SNSマナーアップ宣言」「盛岡市の5か条のスマホルール」の確認を毎回行っている。

- ・新年度開始時に「メディア視聴利用のルール」に関する授業を実施している。また、年に数回、外部講師を招き、情報モラル教室を開催しながら、SNSトラブルへの予防策や、安全な生活習慣の構築について、教育し、ルールの周知徹底を図っている。

「メディア視聴・利用のルール」

仙北中学校区 (仙北中・仙北小・向中野小)

仙北中学校生徒会
仙北小学校児童会
向中野小学校児童会

<時間について> (☆ここで言う「メディア」とは、スマートフォン等の情報通信機器を指します。)

- 1 メディアは、夜9時を過ぎたら使いません。
- 2 メディアの使用時間の上限は家庭で決めます。
・生活リズムを整えるためにも、すべての情報機器の使用時間の上限を、平日1時間とすることを推奨 (おすすめ) します。
・すべての情報機器を使った友達との通信を、18時までとし、家庭の時間とすることを推奨 (おすすめ) します。(小)
- 3 就寝時刻の30分前になったらメディアを使いません。

<情報機器の使用について>

- 4 情報機器の充電は、家族との共用スペースで行い、自分の部屋ではしません。布団に持ち込みません。
- 5 情報機器は、家族がいつでも使用状態や使い方を確認できるようにしておきます。ロックやパスワードをかけている場合は、保護者がいつでも解除できるようにします。
- 6 食事中に情報機器は使用しません。
- 7 メディアは、フィルタリングや保護者設定をして使用します。

<禁止事項>

- 8 友達の名口や秘密、言われていやなこと、個人情報等を、ネットに書き込むことを禁止します。
- 9 勝手に友達の写真や動画を撮ることを禁止します。
- 10 自分や家族、友達の写真や動画をネット上にアップロードすることを禁止します。

<その他>

- 11 使い方で困ったことがあったら、必ずおうちのの人に知らせます。
- 12 ルールを守れない場合には、ある期間、家の人に情報機器をあげます。

※ (小)は小学校のみ

【仙北中学校区 校長より】

- ・この内容は、仙北中学校区の生徒会・児童会が今までの「メディア視聴・利用のルール」を見直し、PTA役員の方にも確認していただいたものです。
- ・メディアの利用に関する責任の第一義は保護者です。見守りとご指導をよろしくをお願いします。

「仙北中学校区 SNSマナーアップ宣言」

仙北中学校生徒会
仙北小学校児童会
向中野小学校児童会

- メディア利用は夜9時までとします。
- 悪口や秘密、言われて嫌なこと、個人情報等を書き込まず、適切に使います。
- 自分や家族、友達の写真や動画をネットにのせず、思いやりのある使い方をします。

(3)小中交流会

昨年度は1月29日に中学校1年生のリーダーたちが小学校を訪問し、小学

校6年生に中学校の紹介を行った。事前に「仙北中学校紹介及び小学生へのメッセージ」を1年生全員が書き、全員分を綴り、小学生に読んでもらえるようにした。今回は紹介の中に、1学年行事の「震災復興研修会」も入れた。中学校では1年生の集会時に小中交流会の報告会を開き、全員で共有を図った。

○小学生の感想○

- ・分かりやすく中学校生活について教えていただきありがとうございました。中学生の話を聞いて、安心して中学校生活を送れることが分かりました。中学校生活が楽しみになりました。
- ・引き込まれる話し方で夢中になって聞きました。内容が分かりやすかったので、中学生になる準備をこれから少しずつやっていけそうです。

○中学生の感想○

とても有意義な時間だった。小中交流会に行き、先輩としての気持ちを深めることができた。真剣に話をしてくれた6年生のみなさんの不安が少しでもなくなってほしいと思う。今後お手本になれるような先輩でいたい。



Ⅶ 研究の成果と課題

1 成果

- ・9年間を見通したキャリア教育全体計画の策定により、9年間のキャリア形成の全体像を把握し、発達段階に応じた指導が可能になった。また、体験活動のみなら

ず日常の活動や教科等、キャリア教育の視点をもって指導に当たることができた。

- ・小学校6年生は中学校段階への移行を見据えた自己の生き方について深く考える機会となる体験学習を実施できた。また中学校段階では、社会全体への視野を広げる体験学習や職場体験を通じて、現実の社会について学ぶ機会を提供し、発達段階に応じた連続的な「人生設計力」を育成することができた。
- ・小中あいさつ運動は、基本的生活習慣につながるあいさつへの意識向上に寄与し、小学校と中学校のリーダー交流の機会を提供した。
- ・「メディア視聴利用のルール」や「マナーアップ宣言」に関する呼びかけや、教室や校舎内への掲示を通じて、情報モラルや健康面への配慮等ルール遵守の重要性を意識する児童生徒が増加しているように感じられる。
- ・小中交流会を通し、異学年間の児童・生徒と交流を促進し、より良い人間関係の育成に寄与した。中学校生活への不安を抱える小学6年生が、卒業した「先輩」から聞くことにより、安心感を得ることができたと考えられる。中学1年生にとっては「先輩」としての自覚を持ち、中学2年生への進級に向けた心構えを構築する機会になった。また、小中交流会の内容を中学1年生全員で共有できたことも意味深いものだった。今後も様々な活動が一部の児童生徒に偏らないように、引き続き意識して取り組んでいきたい。
- ・キャリアパスポートにおいては、教員や保護者が丁寧なフィードバックの提供と、対話的な関与により、児童生徒の自己肯

定感の向上、自己変容の自覚の促進、振り返りの質の向上が確認された。

- ・教員がキャリア教育の視点を有することで、キャリアカウンセリングは個別の支援（自己理解の促進、進路実現に向けた計画の吟味、目標設定と計画など）に特に有効な手段となった。
- ・指導する側の教師のみならず、児童生徒にもキャリア教育の視点を意識させながら日々の授業等を実施することが重要であることが明らかになった。

2 課題

- ・キャリア教育の視点を持った活動は、自己の在り方や生き方を考え、児童生徒が成長を実感できるため、教師側が褒めることや見通しをもって活動するように仕掛けること等、意識的な取り組みの継続が必要とされる。
- ・本研究を通して、3校の連携を深めることができた。メディアルールについては、仙北中学校区の学校・地域・家庭の三者間で共有が実現した。「めざす子ども像」を各校のCSやPTAを通じて共有することで、より一層のキャリア教育に対する理解と協力の促進が期待される。
- ・キャリアパスポートの活用に関しては、2つの点について検討が必要である。1つ目は、ICTの活用である。仙北中学校の新生は、約200名（7～8学級）に上る。キャリアパスポートファイルは大量の段ボール箱で運搬され、仕分け作業にも多くの時間を要している。9年間の記録をデジタル化することで、管理や引き継ぎの負担を軽減し、振り返りを容易にする方法の検討が求められる。2つ目は、児童・生徒にキャリアパスポートを活用させる

時間の確保である。キャリアパスポートを形骸化させないように、振り返りや教員からのフィードバックの時間を確保することが重要である。

- ・キャリア全体計画に情報活用能力を統合し、各校において情報活用能力の育成を目的とした計画を策定した。今後、この計画に基づき、情報活用能力の育成について考えていきたい。

3 おわりに

今回の研究を通して、今後より一層、児童生徒のキャリア形成と自己実現に向けて、特別活動を要とし、各教科・道徳・総合的な学習の時間、行事等、全ての教育課程を通じて、主体的な意思決定を重視する活動や振り返りを通すことが重要であると感じた。そして自己存在感や自己肯定感を向上させること及び、自分を高める力、自分と向き合う力、他者とつながる力を育成することがキャリア教育に繋がることも分かった。これからも仙北中学校区として、児童生徒一人ひとりが、自分の命を大切に、何事にも前向きに取り組み、広い視野を持って進んでいこうとする子ども達を育成し、児童生徒と共に教職員も、「自立貢献」できる大人を日々めざしていきたいと思う。

参考文献

- ・学習指導要領解説（総則および各教科）
- ・学校教育指導指針 岩手県教育委員会
- ・キャリア教育の手引き 文部科学省
- ・いわてのキャリア教育指針～キャリア教育の推進・充実に向けて【改訂版】 岩手県教育委員会
- ・令和3年度「小中学校におけるキャリア教育に関する実践研究＜盛岡市立見前南中学校区＞」 盛岡市教育研究所
- ・令和5年度「小中学校におけるキャリア教育に関する実践研究＜盛岡市米内中学校区＞」 盛岡市教育研究所
- ・いわての情報活用能力体系表例 岩手県総合教育センター